

1 主要な施策の成果の概要

令和6年度は、全国各地で発生した自然災害の発生等に伴い、災害に対する備えの重要性が一層高まりました。また、長引く物価高騰による市民生活や市内経済への影響に対しては、国や東京都の動向も踏まえつつ、市独自の対策も併せて講じるなど、市民生活を守る基礎自治体としての責務を果たす必要がありました。

こうした状況の中、令和6年度は、引き続き、市民の安全・安心の確保と市民生活支援を市政の第一の責務とする中で、令和7年度には、京王線地下化と連動した中心市街地の都市基盤整備の核となる鉄道敷地及び調布駅前広場が、一部を除き完成するという大きな節目に向け、取組の着実な推進に努めました。あわせて、前期基本計画の2年次目として、基本構想に掲げたまちの将来像「ともに生き ともに創る 彩りのまち調布」の実現に向け、計画に位置付けた5つの重点プロジェクトを基軸に、施策の推進、成果向上の4つの視点を踏まえた各施策・事業の推進に取り組みました。

「市民の安全・安心の確保と市民生活支援」については、災害対応能力の向上や防犯対策の充実に向けた取組を推進するほか、日常生活において様々な困難を抱える市民に寄り添い、個々の状況に応じたきめ細かな支援などに取り組みました。

「共生社会の充実」については、「パラハートちょうふ」の理念に基づき、デフリンピックの開催も見据え、手話言語条例及び障害者の意思疎通に関する条例の施行など障害理解の更なる促進をはじめ、子どもや高齢者に関する施策のほか、多様性や多文化共生の推進など、多分野にわたり、全ての市民が分け隔てられることなく、一人一人の個性が尊重される暮らしやすいまちづくりに向けた取組を進めました。

「共創のまちづくり」については、参加と協働によるまちづくりの

更なる充実・発展を図るため、企業や大学、NPO法人等の多様な主体と連携する中で、地域課題の解決に向けた事業展開を図りました。また、調布スマートシティ協議会では、構成団体のノウハウ等を生かした実証を推進するとともに、これまでの活動の振返りを踏まえ、今後における協議会としての活動の方向を整理し、構成団体間で共有しました。

「魅力に満ちたまちづくり」については、中心市街地における都市基盤整備を着実に進め、鉄道敷地整備を完了したほか、文化芸術、スポーツ分野での多岐にわたる事業の推進、地域資源を生かした産業・観光振興による地域経済の活性化などについて、関係団体等と連携しながら取り組みました。また、豊かな自然環境の保全・活用に加えて、ゼロカーボンシティ調布の実現を目指し、行政としての更なる率先行動と併せて、民生部門における脱炭素化の推進を図ることなどを通じて、市民と共に地球温暖化防止に向けた取組を進めました。

これらの取組と併せて、基本計画の分野別計画に位置付けた各施策・事業を着実に推進していくため、行革プラン2023に基づき、幅広い市民参加や多様な主体との連携による共創などの「参加と協働のまちづくり」及び、デジタル技術の活用によるサービス向上や事務の効率化、簡素で効率的な組織体制づくり、健全な財政運営、ファミリーマネジメントなどの「効果的・効率的な行財政運営」の市政経営における2つの基本的な考え方に基づく取組を進めました。

令和7年度も、頻発する自然災害や国内外の社会・経済情勢などが市政に及ぼす影響を注視しながら、引き続き、市民の安全・安心の確保と市民生活支援を基調として各種取組を進めるとともに、市制施行70周年の節目を迎えた中で、明るい未来へとつなげていきます。